

RID 2600 2014～2015 第28年度伊那中央ロータリークラブ週報

INACHO ROTARY WEEKLY NEWS

事務所：長野県伊那市狐島4288番地 電話 0265(76)5858 例会日：毎週火曜日 例会場：海老屋料理店 0265(72)2158
会長：小川秋實 副会長：唐澤敏治 幹事：小向誠一



2014-2015 国際ロータリーのテーマ

ロータリーに輝きを

Light up Rotary

2014-2015 RI会長
ゲイリー・C.K.ホアン
台湾台北



第1306回 さくら例会 平成27年4月14日(火)

■ さくら例会 12:00～ 分水ロータリークラブ寄贈の友好桜の花見 (於：伊那中央病院庭)



■ 通常例会 12:30～ 例会場にて

■ 点 鐘 12:30

■ ソング 真実を求めて 馬場秀則ソングリーダー

■ ゲスト・ビジター紹介 ・分水ロータリークラブ 川崎吉明様 杉田和夫様

■ 会長談話 小川秋實会長



分水ロータリークラブから贈与されたサクラがみごとに花を咲かせました。本日例会前に、伊那中央病院の庭でそのサクラの花見ができました。分水ロータリークラブからも川崎さん、杉田さんに参加していただき感謝いたします。この木が花を咲かせ続けるように、分水ロータリークラブと伊那中央ロータリークラブの友好が続くことを願っています。両クラブが友好を結んだのは、桜が縁でした。大河津分水の堤防沿いにある桜並木は「日本さくらの名所100選」に選定されています。伊那市でも高遠城址公園のサクラが「日本さくらの名所100選」に選ばれています。

サクラは日本人が最も愛する花で、いつせいに花を咲かせ、あっという間に散る姿は日本人の人生観をあらわしています。桜をテーマとした文学作品は、古くは万葉集にはじまり、数知れません。古事記のなかにも桜に関する記述があります。サクラは菊とともに日本の「国花」です。ちなみに、大河津分水がある燕市では「市の木」がサクラ、伊那市では「市の花」がサクラです。

大河津分水の堤防沿いに約3000本のソメイヨシノが植えられています。ソメイヨシノは江戸末期に江戸の染井村(現在の駒込付近)の植木職人によって品種改良されたもので、オオシマザクラとエドヒガンを掛け合わせて作られました。交配したことで、オオシマザクラの美しさ・華やかさを持ち、エドヒガンの花が終わるまで葉が出ないという特徴を併せ持っています。全国に植樹されたため、日本のサクラの80%はソメイヨシノです。種子を作らないので、全国のソメイヨシノは、接ぎ木か挿し木で増やしたもので、すなわち同じ遺伝子を持つクローンです。そのため、気候・土壌などの条件が同じなら、多数の木がいつせいに花をつけ、いつせいに散ることになります。

伊那市内にはサクラが1万2000本あり、そのうち、高遠城址公園には、約1500本のタカトオコヒガンザクラが植樹されています。マメザクラとエドヒガンの交雑種といわれます。明治の初め、城址を公園として整備するさいに、小原地区にあったサクラを植樹したのが最初で、その後、同一種類の苗木だけ植えてきました。樹齢約130年の古木も存在します。いつせいに咲き、いつせいに散ることから、すべてクローンだと思います。このほかに、春日城跡公園と伊那公園にはそれぞれ400本以上のサクラ(ソメイヨシノとコヒガンザクラ)が植えられています。このようにサクラが多いことから、白鳥・伊那市長は「日本一の桜の里づくり」を目指しています。しかし、日本一のサクラの名所は奈良県の吉野山で、3万本のヤマザクラが群生しています。野生のサクラで、花と同時に若葉が出るのが特徴です。樹齢1000年を超えるものも存在します。開花時期に個体差があるためいつせいに散るということがなく、長いあいだ花の時期が続きます。

■ 委嘱状伝達式 公益財団法人ロータリー米山記念奨学会より 米山奨学生 沈昱東さんのカウンセラーに唐澤稔会員を委嘱



■ ニコニコボックス

- ◆小川秋實 分水ロータリークラブ寄贈の友好桜が見事に花をつけました。分水ロータリークラブの川崎さん・杉田さんの来訪を歓迎致します。
- ◆矢野昌史 杉田さん・川崎さん、遠くからご苦労様です。分水からの桜いかがでしたか？
- ◆兼子展世 初孫が無事松本深志高校に合格し、去る4月3日入学式を終えました。
- ◆田中洋 分水ロータリー川崎様・杉田様、ようこそ花の伊那市へ。今年の桜の季節は雨ばかりです。おかげさまで友好桜は見事に咲きました。

(発表 伊藤幸明委員長)

■ ご挨拶

分水RC 川崎吉明様



■ 幹事報告

小向誠一幹事 幹事報告は別紙をご覧ください。

■ 出席報告

会員数34名 出席免除会員8名 長欠会員2名 本日出席者23名 事前メイク2名
出席率83.33% 前回出席率 修正なし (発表 平澤理委員)

■ 地区研修・協議会の報告 4月5日(日) 於：松本大学

⑤職業奉仕部会

矢島宏 次期職業・社会奉仕委員長



職業奉仕こそがロータリーの原点である。久保田栄一委員長(飯田RC)始め各委員の方から、職業奉仕について自分の職業を生かして具体的に実践している自己紹介があり、また今年の2600地区の職業奉仕の方針の説明がありました。

- ①職業奉仕の具現化・見える化
- ②ロータリークラブの職業奉仕は「いい会社を作ること」である

③職業奉仕は難しくない

◎職業奉仕の見える化では出前講座について説明され、松本RC・佐久RC・伊那RCでの活動発表があり、2600地区で100講座、各クラブ2回以上の出前講座をするように目標を示され、それぞれのクラブで学校等交渉するようにとの事です。

◎いい会社を作ろうでは、伊那食品の経営理念「いい会社をつくろう」が例に挙げられていました

◎最後に横田カウンセラーから職業奉仕と国際奉仕のあり方について話があり、シエルトの哲学の話「職業の安定と持続なくして奉仕活動は困難である」又ロータリアンは「職業奉仕は人生そのものである」との自覚に立って、率先して正しいビジネスを実践すべしと締めくくられました。

伊那中央ロータリーとしては、青少年奉仕委員会と協力して伊那西高校にお願いして、出前講座が2回程予定できたら良いかと考えています。

大変勉強になり、有意義な研修会でした。

⑦青少年奉仕部会

矢野昌史 次期青少年奉仕委員長



〔地区インターアクトテーマ〕

- 1) 奉仕の心を見つめ直し、地域社会のプレゼントになろう
- 2) 海外の若者たちと交流し、奉仕について交換しよう
- 3) もっと仲間を増やし、若者の奉仕の輪を広げよう

〔事業の具体的な計画〕

- 1) IAC交流・研修セミナー
・各IAC生徒同士と来日留学生との楽しい交流をする
- 2) ロータリー地区大会青少年アワー
・活動発表は10月開催予定

- 3) 広報素材の制作（勧誘パンフ）
 - ・インターアクトクラブの案内パンフレットやポスターを作成し、部員の勧誘や広報活動のツールとして活動する
- 4) IAC地区大会
 - ・次年度は東海大三高校と茅野RCのホストで5月か6月に行う予定
- 5) 海外研修補助制度
 - ・海外研修を実施するIAC、提唱クラブは毎年6月までに実施計画を提出し、地区委員会で検討する
- 6) 短期交換留学の制度について
 - ・夏休みを利用した短期交換留学に参加する生徒を積極的に募る
- 7) 表彰制度の制定
 - ・1年間の活動結果に対し、表彰する制度を新たに設け表彰する

※年間活動資金は3,500,000円

⑧国際奉仕部会 池田幸平 次期国際奉仕委員長



ロータリークラブにおける国際奉仕とは、ロータリーの目的の意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにあり、その4項目目、奉仕の理念で結ばれた職業人が世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進することをもって、人道的な活動を広げ、世界理解と平和を推進することです。では国際奉仕の名の下で何をやるかということ、重要なのは世界社会奉仕活動（WCS活動）ということです。これは国や行政が地域社会のニーズを満たせない発展途上国や開発途上国で、そこにあるロータリークラブも資金がなくて奉仕活動が実践できない場合に、海外の

地区やロータリークラブに支援を求め協力して奉仕活動をするを言います。そして私たちの活動によって助けられた人々の喜びを目の当たりにする時、私たちロータリアンも大きな喜びを手にすることが出来ます。つまり恩恵を受けることです。奉仕の相手だけではなく、奉仕をした自分も満たされるのが真の奉仕ですということでもあります。以下地区の事業計画と重点事業です。

地区委員会事業計画

- 各クラブが、国際奉仕の活動により国際理解と親善・平和を推進するための相談・助言・魅力などの情報を発信する。
- 各クラブが世界社会奉仕活動に必要なグローバル資金を活用した事例を作り公開する。
- 青少年交換の意義と理解を深め、国際親善を推進する。

重点事業

- ①クラブ間協働によるWCS活動とグローバル補助金を活用した事例づくりを支援
- ②青少年交換の送り出し、受け入れ、来年度の募集への協力
- ③必要に応じ各所においてWCS活動の事例の紹介

①の事例としてミンダナオ子供図書館財団活動の支援を提案し、現在茅野・天龍・松本西南・諏訪湖の4クラブが参加表明をしているとのことです。国際奉仕事業の経験は当地区では10クラブです。

②の青少年交換学生の派遣受け入れクラブには偏りが見られますが、派遣クラブが受け入れが出来ない場合は他クラブに協力を仰ぐ等応援するので相談して下さいとのこと。また会員の子弟は交換学生として派遣できないとの誤解があるが間違いであるとのことでした。

⑨ロータリー財団部会 清水吉治 次期ロータリー財団副委員長



4月5日に行われた地区協議会に参加し、ロータリー財団委員会で研修してきましたので、要約を報告いたします。

委員長は都筑文男パストガバナーのもと、5つの小委員会より計画と補助金について説明がありました。

次年度は、「クラブのサポートと強化」「人道的奉仕の重点化と増加」「公共イメージと認知度の向上」を柱にして、この先3年間は路線を変更せず進めるという事です。

次頁へ続く

優先項目1：永久にポリオを撲滅する

具体的には

- ①毎年3500万ドルの寄付を確保し、ドイツ財団のチャレンジに応える。
- ②ロータリーの役割について周知を図る。
- ③ポリオ撲滅におけるロータリーの宣伝を見直す。

優先項目2：財団に対するロータリアンの知識、参加、寄付の向上を図る

- ①財団プログラムをより学ぶため、効果的な方法を例会で活用するよう奨励する。
- ②グローバル補助金に全地区が関与し、全クラブの25%が関与する。
- ③年次基金への寄付を、全地区で3%増加させる。

優先項目3：財団の補助金と6つの重点分野を通じて、人道的奉仕の質と影響を高める

- ①グローバル補助金への支出総額を、全世界で10%増やす
- ② 同上 による奨学金の数を全地区で1口増やし、世界で15%増やす
- ③持続可能性、簡潔さ、効果の点で成果を測定し評価する

優先項目4：今日までの100年の歴史に注目しこれまでの実績に対するイメージと認識を高める

- ①2016-17年度の財団100周年の祝賀を計画し実施する
- ②ロータリアンと他の支援見込者を対象とした国際会議を企画し、平和に対するロータリーの取組を促進する
- ③会員増強の必要性や奉仕に対する認識を高め、周知を図るため少なくとも2つの新しい財団イニシアチブを立案する

2600地区財団委員会の目標と計画

- ・基金寄付目標額150ドル
- ・ポリオプラス500円 ロータリー平和フェロシップ500円
- ・次期地区補助金申請（2016年1月～3月中旬）
- ・ロータリーカードに新規二名加入（スタンダードカードは年会費は無料）
- ・地区ロータリー財団奨学生を推薦する（グローバル補助金のみ）

⑩米山記念奨学会部会

伊澤和男 次期米山記念奨学会委員長



上田東・清水委員長を始めとし伊那・松下寄付増進委員等5名の委員の説明と米山学友の群像、ひろがれ！人づくりの輪、5分DVD上映など米山記念奨学会の実情の報告があり、設立当初アジアを中心とした支援活動であったが今は全世界を対象とし、寄付金は2013年平均で普通4,679円、特別10,521円であったこと、当2600地区は全国34地区中16位にあり全国平均15,200円に対し15,764円とその平均を越えていること、最近の事例として米山卒業生より恩返し寄付が目につくようになってきた、特に中国の姫軍さんからは毎年50万円の寄付が寄せられているなど実名の報告がありました。

韓国松本大学米山留学生からは米山奨学生に選ばれることは仲間の中でも大変名誉のことでありアルバイトに明け暮れることもなくお陰様で卒業することができるなどのお話もありました。

質疑応答では選考にあたり中国人が多過ぎる、留学生の資質に問題があるのではないかなど厳しい意見が続出しましたが、当地区より財団副理事長として出向している諏訪ロータリー三井章義氏より細部の説明があり現況では最大限の配慮がされているとのことでした。また来年度は米山卒業生の講師料が認められ40万円の予算が付いたので1回目として姫軍氏を呼ぶ予定であるとのことでした。

伊那中央も来年度は米山奨学生として沈昱東君を支援し、カウンセラーは唐澤稔会員です。財団寄付金ともども1年間よろしく願います。

■ 点 鐘

13:30

次回例会

4月21日(火) 創立記念例会・観桜会

点鐘 18:00 場所 海老屋料理店